

スペイン バレンシア州でカキの収穫が始まる

[FreshPlaza 2024年9月17日](#)

「スペインでは、ロホブリランテ品種のカキの世界最大の生産者であることの幸運と課題がある」

先週、スペインのバレンシア州でカキの収穫が始まった。モロンド社のフェルナンド・マルティ氏は、「出荷シーズンは9月12日に始まり、2月20日頃まで続く。昨年と比較して、降雨量が不足しているため小玉になるが、品質は良く、出荷量は同程度と見込んでいる。ただし、雹を伴う嵐やアザミウマなどの害虫の脅威が依然として存在することから、損失が増えるかもしれない」と話す。(以下「」は同氏の発言)

「それでも、今年は、園地管理のお陰でシーズンの初めから終わりまで適切な色と硬さの果実を提供することができるので、再びシーズン全体を通じて通常のサービスを提供する。」

「この点に関し、農業での使用が許可されている植物衛生措置について、ヨーロッパの規制当局からの圧力が高まっていることを指摘する必要がある。認可された有効成分の数が減少し病害虫を制御するための十分に有効な代替手段がないため、病害虫の増殖を引き起こしている。」

「植物検疫資材の使用による環境への影響を減らすための対策の実施と、農業部門の生存を確保するための有害な病害虫との闘いとバランスを模索することが望ましいと思う。これは、病虫害では損失に加えて処置の費用もかかるからである。例えば、アザミウマの場合、既に使用している薬剤に新しいものを追加する必要があるが、コストが絶えず上昇している状況では収益性の低下を伴う。」

「スペインの農業が次第に持続可能になっていることを忘れてはならない。実際、弊社は水の効率的な管理と持続可能な使用に関する新しい認証を取得した。我が国はこれまで常にヨーロッパの農園であった。その地位を失わないために、ヨーロッパの規制は我々が必要とする予防と処置のためのツールの使用を認めるべきである。」

「毎年、夏果実から秋果実への移行期に、カキは多くの関心を集めている」

カキは国内外の市場で大変好評を博してきた。「出荷に必要な脱渋処理が近代化されたのはわずか30年前であり、カキは比較的新しい果実である。毎年、夏果実から秋果実への移行期に、カキは多くの関心を集めている。」

「弊社は引き続き、スペインとヨーロッパの主要な卸売市場及びヨーロッパの主要なスーパーマーケットチェーンと取引している。また、カナダなど遠方の取引先もあり、実際、現在、カナダ市場ではカキの消費量が増加傾向にある。」

「スペイン全般、特にバレンシア州で、我々はロホブリランテ品種のカキの世界最大の生産者であることの幸運と課題を有している。そのため、我々にはこの製品の収益性を確保する責任がある。」

「こうした理由から、近年、果実の消費量が全般的に減少していることを考えると、弊社のカキを宣伝する取り組みはますます重要になっている。我々は弊社が素晴らしい製品を持っていると分かっているが、一部の国の消費者の間ではまだ認知度が低い。」

「だからこそ、弊社はスペイン・カキ協会が実施しているすべての販促活動に感謝している。その中で、弊社は、ささやかながらカキを主な食材とした美食イベントを開催している。実際、前回の出荷シーズンの成功体験を踏まえて2025年に新しいバージョンを開催する予定で、参加に関心のある人は誰でも今後数カ月の内に登録することを歓迎する。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)